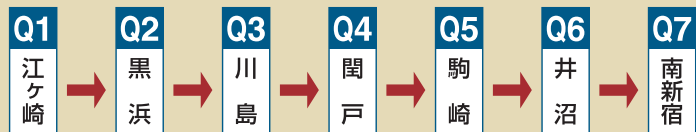


サイクリング ROUTE 1 ルート上 ●西城沼公園 下り坂のためスピードの出しすぎに注意
危険箇所 ●蓮田中学校付近 車の交通量が多いので注意

久伊豆アコース [久伊豆でクイズ]

蓮田市には神社が21社あり、その多くは江戸期あたりから存在していました。このうち、久伊豆神社は7社あり、不思議なことに元荒川流域のみに分布しています。東の「香取神社」圏（古利根川・利根川流域に分布）や、西の「氷川神社」圏（武蔵野台地と大宮台地の間に分布）と並び、一祭祀圏をなしている久伊豆神社は、ほぼ南北埼玉郡一帯に南北に長く分布するという特徴があります。その読み方には、「ヒサイズ」「クイズ」の両者がありますが、蓮田では「ヒサイズ」と読んでいます。

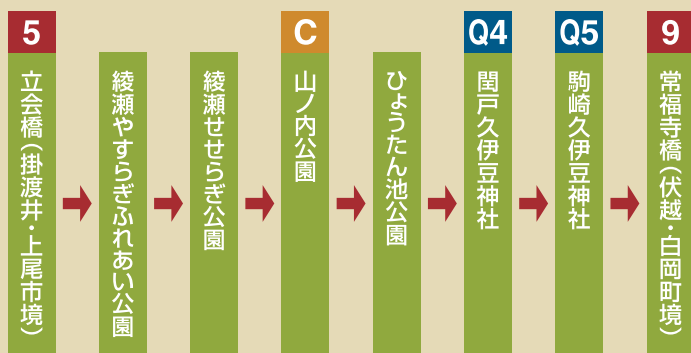
蓮田市には、久伊豆神社の他に、諏訪神社、稻荷神社、天満社、八幡神社、氷川神社、須賀神社、愛宕神社、伊夜彦神社があります。「貝塚神社」と「根金神社」は神社合祀により地名をそのまま社名としたもので、もともとは久伊豆神社でした。



サイクリング ROUTE 2

田園コース [みどりのヘルシーロード]

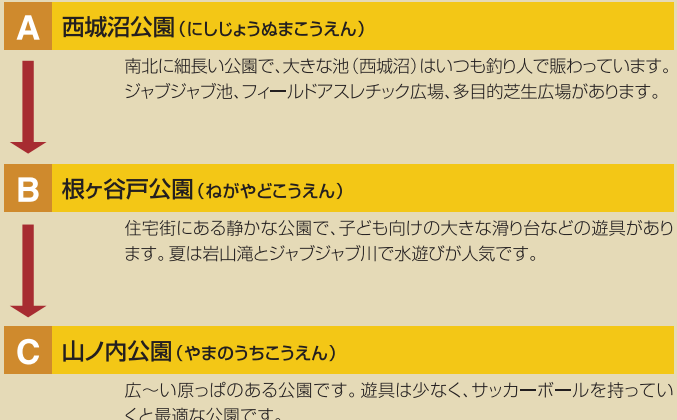
田園風景の中を、自然を感じながら走れるコースです。瓦葺の掛渡井（上尾市）から柴山の伏越（白岡町）まで見沼代用水に沿って、全長約9kmの距離があります。ちょっと寄道をして、蓮田の史跡に立ち寄ってみてください。



サイクリング ROUTE 3 ルート上 ●見沼代用水~122号バイパス付近まで車の交通量が多いので注意
危険箇所 ●カーブのため見通しが悪いので迂回

ファミリーコース [公園めぐり]

市内の特徴ある公園を集めてみました。休みの日は、サイクリングで公園めぐりをしてみてください。



ちょっと寄道

1 江ヶ崎城跡
江ヶ崎の瑞穂団地の範囲が「江ヶ崎城跡」で、県指定旧跡となっています。文献などの記録がないため正確なことはわかりませんが、城主は新羅三郎（源義光）の子孫、もしくは家臣の鬼窪尾長守繁政などと伝えられています。



城全体の面積は6~7km²、館跡の面積は約2km²で土を盛り上げた土塁で囲まれていたようで、現在でも土塁と空堀の一部がわずかに残っています。

2 黒浜沼
蓮田駅の東方約2.5kmにあり、上沼と下沼を総称して、黒浜沼といえます。蓮田市を代表する自然の宝庫であり、昭和54年に埼玉県自然環境保全地域に指定されました。沼の周囲には、ヨシ・マコモ・ガマなどの湿性植物が生育し、環境省が絶滅危惧種として指定しているジョウロウスゲやミスシラなどが確認されています。都市部ではほとんど見られなくなったヘイケボタルや豊富なトンボ類も生息し、また、多くの野鳥が見られることから、バードウォッチングの名所としても知られています。この貴重な自然を後世に残すために、上沼は平成20年、埼玉県の「緑のトラスト保全地第11号地」に決定されました。



3 黒浜貝塚
黒浜貝塚は、縄文時代前期中葉「黒浜式土器」の標式遺跡（ひょうしきいせき）・貝塚として著名で、平成18年7月28日に国指定史跡となりました。黒浜式土器は型式細分（細かく時代が分けられる）がされる以前には「蓮田式土器」と呼ばれていましたが、研究の進展により「花積下層式土器」、「閩山式土器」、「黒浜式土器」と細分され、その最終末に位置付けられました。また、昭和初期に山内清男博士・大山史前学研究所等が市内10数ヶ所の貝塚の調査を実施しており、黒浜貝塚もそのひとつです。



黒浜貝塚は、大宮台地東部の蓮田・白岡支台上に位置し、縄文時代前期閩山式期末から黒浜式期を中心とした貝塚を伴う集落遺跡です。北側谷部に向かって東西約50m、南北約40mにも及ぶ「窪地状広場」（縄文人が行った大きな土木工事）を取囲むように、東西150m、南北95mの範囲に住居跡や土坑群が展開するもので、典型的な縄文時代前期のモデル村とすることができます。

4 寅子石
寅子石と呼ばれている板碑です。高さは4mもあり、県内2番目の大きさで県指定の考古資料となっています。1311年、鎌倉幕府が崩壊の兆しを見せ始めたころ、親鸞の直弟子真伝法師の報恩供養のために、唯願法師が建てたものですが、この地に残された、寅子伝説という悲しい言い伝えから「寅子石」と呼ばれるようになったものです。
*寅子伝説は地図面に掲載



5 瓦葺の掛渡井
上尾市（瓦葺）との境の綾瀬川で見沼代用水が川の下へ潜っています。水の立体交差でこの用水ができた当時（1728年）は木製の掛樋が川の上を通り、「瓦葺の掛渡井」と呼ばれていました。見沼代用水は、農業用水であると同時に江戸への航路でした。このため、掛渡井は長さ40m幅14mもあり、船も通ることができたようです。現在見られるものは、明治41年に、レンガと鉄で造られた掛樋の名残です。
*掛樋:河川の上を通る「川の立体交差」。



6 閩山貝塚
今から7,000年前の縄文時代早期の終わりごろから縄文時代前期の中頃（5,000年前）には、蓮田の地に海水が浸入し、海の幸をもたらしていました。現在の標高8m程度のところまでは、海水が浸入し、閩山貝塚や黒浜貝塚のある高台には、太古の人々が暮らしていました。現在の高低差は5~8m程度



ですが、当時の海は標高3m弱であり、10mを越える高低差があったようです。

7 綾瀬貝塚
貝塚神社付近一帯に広がる縄文時代前期の貝塚です。汽水産ヤマトシジミを主体とする主浜貝塚（神社周辺）と海水産貝類を主体とする主唹貝塚の2つで構成され、元荒川流域の最奥部に位置する貝塚としても知られています。この貝塚も昭和初期に大山史前学研究所等により発掘調査が実施され、イルカの骨の出土等が報告されています。



8 山ノ神沼
元荒川の堤防後背地に広がる水田地帯と住宅地の間に位置する山ノ神沼は、農業用のため池として古くから地域に利用されてきました。現在は、県営地域用水環境整備事業のもと、農業用水利施設として保全改修を図りながら、地域の周辺環境に調和した親水、景観、利用保全施設の整備をおこない、散策や釣りなどが楽しめるよう環境に配慮した整備を進めています。



9 柴山の伏越し
昭和3年に改修され、現在はコンクリート造りとなっています。当初は「木製の管」で、見沼代用水が元荒川の下を潜っていました。水の立体交差の工事は見沼代用水工事の中でも最大の難関であり、当時の最高技術を用いて作られたものでした。
*伏越:河床の下を通る「川の立体交差」。



10 高虫氷川神社
高虫氷川神社は、小規模ですが本殿は権現造り（けんげんぞう）をなしています。その本殿に施された妻飾・斗拱・装飾彫刻等は、江戸時代後期の神社建築様式の特徴を良く残しています。

